

二〇一四年一月二日 開催

《『留学生と語る』オープンディスカッション》

外国語学習とわたし

松本陽子

(執筆||ミラー成三)

■ ディスカッション協力……本学留学生別科「日本語
インターアクション5」クラス生6名、足立帆波(本
学国際コミュニケーション学科四年生)、関山朋和
(本学英米語学科四年生)、岡島有紀(同三年生)
■ コーディネーター……松本陽子

第四回ディスカッションでは留学生と日本人学部生が、外国語学習や留学を通して経験したことや感じたことについて話し合った。まず、外国語を話していて誤解されたことや恥ずかしかったことが話し合われた。留学生からは「居酒屋で働いていて、生一つと言われた時に料理をする人に頼んでしまった。生は料理ではなくて生ビールということで、それは自分の仕事だったので恥ずかしかった」「日本に来て初めの頃、お料理の本を買おうと思って、店員さんにおしりはありますかと聞いてしまったのが一番恥ずかしい」「スーパーで買

い物をしていた時にレジの人に話しかけられて、分からずにはいと返事をした。最後に割り箸くださいといったら、実はその前話しかけられたのが『割り箸必要ですか?』だったので恥ずかしかった」など日本で生活している時の経験が多く挙げられた。学部生からは「英語を勉強していた時に、何か話しかけられて聞き取れなかったときに適当にYesと答えたら、相手が実はYes/Noクエスチョンじゃない質問をしていたことがあった。分からないことはちゃんと聞き返さないとけないなと思った」という、英語に関する経験が挙げられた。次に外国語を勉強して楽しいと感じる時、苦しいと感じる時はどんな時か。また苦しいことはどのように乗り越えたのかということについて話し合われた。「英語ネイティブの人たちと英語でお互いの文化について話している時が楽しいと感じる。苦しい時は、英語の発音が苦手なので何回言っても伝わらない時だと思う」「言いたいことが少しずつ伝えられるよ

うになったり、自分の成長を感じられることが楽しい。苦しい時は、最近伸び悩みがあるので、それが大変」「自分が言っていることが伝えられると楽しい。しかし、自分の言いたいことが伝わらないと苦しい」「自分の意思が伝えられない時はやはり苦しいと思う」など、自分の意思がうまく周りに伝わらない時が苦しいという意見が非常に多かった。その他にも「漢字が苦手」という意見や、「読解が苦手」など日本語の試験に関して苦しさを感じているという意見も挙げられた。解決策としては、「一人で黙々と勉強するより、英語でしか話せない友達と話したりするなど、いかに楽しい勉強方法にするかを考えている」「疲れた時は家族とか友達に相談して楽になって、もう一回頑張る」など、周りの人たちに相談するという意見が多く挙げられた。

次に、上達するために自分で考えた勉強法について報告し合った。ここでは「韓国のドラマが好きで、毎日見ていたら韓国語の普通の会話は分かるようになった」「その国の言葉を使っているドラマを見ることだと思う。ドラマは会話形式なので授業では勉強できないことが勉強できる」「Facebookで海外の友達がポストしている内容を調べたりする。身近に感じるのですごく楽しく勉強できる」など、ドラマや映画、SNSを使って、日常の言葉覚えるという方法が多く挙げられた。その他にも「ボランテニア活動やサークル活動をする

のがおすすすめ。日本人と一緒に交流することが多いので、自分の日本語も上達する」「単語の勉強に重点を置いている。朝起きたときや夜寝る前、隙間の時間を使って単語の勉強をする。その時に実生活に使えるような語があつたりしたらメモをしたりしている」「歌が好きで歌で勉強する。音のつながりなどが自然なので発音なども参考になる」という意見も挙げられた。

続いて、勉強した外国語を将来どのように活かそうと思っているかについて話し合われた。「日本のテレビ番組で、タイ人のタレントとしてタイの魅力伝えたいと思っている」「日本の会社で働きたい。今まで勉強を頑張ったので、やはりそれを使いたい」「デイズニールドの中に日本の文化を紹介するレストランのような場所がある。そこで日本の良さをゲストに伝えていきたいと思う」「お父さんとお母さんも先生なので、将来は日本語の先生になりたいと思っている」「最近日本人が韓国の化粧品を買ったり、韓国人が日本の化粧品を買ったりしている。韓国が日本の化粧品の会社に入ってお互いの化粧品を紹介したい」など、将来は現在学んでいる言語を活かした職につきたいという意見が非常に多かった。一方で学部生からは、「働く時に必要な英語は、今学んでいる英語とは違うと思うので少し不安」「ビジネスで使う言葉は少し違うと思うので、働きだしてから勉強を続ける必要があると



会場風景

思う」など、現在学んでいる英語とビジネス英語との違いについての意見も挙げられた。

最後に外国語の勉強で一番大切だと思うことについて意見が交わされた。「一番大切なのは努力と、それを続けることだと思う」「自分が諦めずに、目標や夢をもって勉強するのが大切」「きつと上達できると信じて勉強し続けること」など、継続が重要とする意見や、「一番大切なことは勉強だと思わないこと」「勉強だと思わずに、興味を持つて文化などと一緒に学ぶのがいいと思う」など、辛いことではなく楽しいこととして外国語を学ぶことが

大事であるという意見、「言語をよく使うのが大事だと思う。使う機会がないと下手になってしまおうと思う」「間違いを恐れずに、習ったことをどんどん使つてそれを身につけていくのがいいと思う」「学んでいる言語でコミュニケーションをたくさんすること

ということができるだけその言語を使ってコミュニケーションをするという意見が挙げられた。その他にも、「自信を持つことが大切」や「外国語を勉強しながらも自分の文化を忘れないこと」という意見も話されていた。

まとめ

四回のディスカッションを通して共通する点として、異文化接触の困難さが挙げられていた。留学や外国語学習を通じて異文化と触れ合う時に直面した様々な経験が語られ、その内容も多様であった。言語自体の困難さや、それぞれの文化における習慣の違い、また言語の違いなどに触れた時に感じる困難さは、留学生はもろろんのこと学部生も日々感じているようであった。

一方で、このような困難は乗り越えられないものではないということも指摘されていた。お互いの事を理解し、お互いの文化を尊重することで異文化接触に際して生じる困難を乗り越えることができるということ、またそれを改めて共有できたことは留学生、学部生を勇気づけることであつたと言えるだろう。ディスカッションを通して学生たちは、コミュニケーションを通じてお互いのこと、お互いの言語、お互いの文化を学び理解を深めることの重要さや、その新しい方法に気付いたのではないだろうか。